

令和6年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標	具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上	学習支援課	昨年度より個々の既習内容が分かる資料として国語の「教科ファイル」を作成に取り組んだ。教員個人の授業改善にはつながったと考えられるが、教員間で授業計画や実践を目的として「教科ファイル」を活用するケースが少ない。	【努力指標】(教員) 授業改善の取り組みとして「教科ファイル」を活用した指導案検討や授業実践、教材の共有を行い、学部相互で「教科ファイル」の有効性を共有したり加除修正したりする。	授業実践や指導案検討で「教科ファイル」が有効に活用されていると考える教員の割合が A:80%以上である。 B:70%以上である。 C:60%以上である。 D:60%未満である。	【達成目標B以上】 中間評価がC以下の場合、取り組みを再検討する。	教員アンケート調査 7月、12月
2	地域社会との連携	総務課	小学部は小学校や特別養護老人ホームとの交流を、中学部、高等部は公民館の方々に切り絵や水引細工を習ったり、制作物を地域の商店街に配布したりした。様々な活動を継続して実施し、障害のある児童生徒への理解につなげたいと考える。	【満足度指標】(交流相手) 交流活動を通して地域の学校の教員、高齢者福祉施設、公民館等を利用している方々が本校への理解を示したり、児童生徒が主体的に地域の方々と関わろうとしている。	交流活動を行う中で本校や障害のある児童生徒に対する理解ができたとする割合が A:80%以上である。 B:70%以上である。 C:60%以上である。 D:60%未満である。	【達成目標B以上】 中間評価がC以下の場合、取り組みを再検討する。	交流先へのアンケート調査 7月、12月
3	安心・安全な学校作り	生活支援課	能登半島地震発災後、各家庭へ安否確認をした際、各々環境は異なったが児童生徒自身が自分の身を守る等安全策を身につけた行動が見られた。これまでの防災教育の成果と推測されるが、状況下によっては保護者と学校との間で連絡が取れない等の課題がある。	【成果指標】(保護者、教員) 災害時を見据え、学校から保護者への連絡が取れているかを確認する意味を含め、毎月連絡網を使用して情報発信し、適切に情報を共有している。	毎月、学校や学部からの情報を発信し、その回数が適切であった、とする保護者の割合が A:80%以上である。 B:70%以上である。 C:60%以上である。 D:60%未満である。	【達成目標B以上】 中間評価がC以下の場合、取り組みを再検討する。	保護者へのアンケート調査 7月、12月